

静岡市立新通小学校

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年6月18日(火)



出前授業レポート

「頭でイメージしていたものを実際に見たり体験したりしたことで、理解が深まり、ねらいを達成することができました。」

静岡市立新通小学校の6年生28人が、本物の土器に触れたり、石器による試し切りをしたりして、体験をすることによって古代の歴史について理解を深めることを目的に、発掘調査と周辺遺跡の話と、土器の分類・石器の試し切り・火起こしの3つの体験を行いました。

発掘調査と周辺遺跡の話



埋蔵文化財センターの仕事と新通小学校の周辺遺跡の話をしました。学校周辺にもたくさんの遺跡があることを知り驚いていました。

賤機山古墳には、近々見学に行く予定です。

「発掘調査をして、いろいろなものを発見しているのがすごいなと思いました。」



6世紀末に作られた古墳



石器の試し切り体験



穴を掘ったり、木を切ったりするために石を加工する必要があったことを認識した子どもたちが、本物の打製石器や磨製石器を見たり触ったりして、昔の人の生活を想像していました。また、黒曜石の切れ味に感心していました。

「キュウリみたいに柔らかいものだけでなく、キャベツの芯やニンジンなどの堅いものも切れたのでびっくりしました。」



土器の分類体験



縄文土器・弥生土器・須恵器の3種類の土器片を完形土器と比べながら分類しました。ある程度歴史学習が進んでいたこともあり、どの班も分類がスムーズにいきましたが、少しだけ難しかったようです。

「縄文土器はすぐに分かったけど、弥生土器と須恵器を分けるのが難しかったです。」



火起こし体験



テレビ番組で、火起こしを見たことがある子どもたちは、興味津々で、試技を見ていました。簡単そうに見えるようでも、やってみると大変なことが分かり、火を起こすことの大変さを実感していました。雨が強く降る日でしたが、悪条件をもろともせず着火させていました。

「みんなで協力して火をつけることができて良かったです。」



先生方の感想

「学校の普段の授業で学習した「縄文時代」や「弥生時代」の人たちの暮らしに使っていた道具の使い方を理解することができ、とても良かったです。頭でイメージしていたものを実際に見たり体験したりしたことで、理解が深まり、ねらいを達成することができました。講話だけでなく、体験活動をたくさんさせてもらったことがとても良かったです。特に火起こし体験では、火がついたときに喜びを感じ、いかに昔の人は工夫をしてすごいことをしていたのかや大変さなどを理解することができたので良かったです。子どもたちとやりとりしながら分かりやすくいいいに説明して下さったおかげで、子どもたちの理解もより深まったと思います。また、掲示物を見てキャリア教育の話もしてくださり、発掘調査とはどのようなお仕事なのかも知ることができたので、とても良かったです。今後の授業にも活かしていきたいです。」

